

蝶世

Bブロック全作品と講評

www.columnland.net



僕は

はっぱの上に

うまれた。とりあえず

おなががすいたので、

まわりのはっぱをたべる。

たべる。たべる。．．．

はっぱ一枚だけでは、

たりないから次のはっぱ

をたべにいく．．．

上の方へ。

— —
たくさんたべておなががいっぱいになってきたからさらに
上の方へのぼってゆくことにする．．．上へ上へ。

僕は

—
ねむくなって

—
きたのでねること

にした。そしたら糸が体を

つつみこんでちょうどいい

ハンモックができたからここでねることに

するのをきめた。おやすみなさい．．

zzzz．．．

いく

とんで

ひらひら

上の方へ

おきたら体の形がかわっている

ことにきづいた。羽が付き

じゆうにとべるようだ

空高く

僕は

ちようちよ

「蝶々夫人」という作品をご存知だろうか。国内外で「マダム・バタフライ」という名でも親しまれているオペラで、ヴェルディの『椿姫』、ビゼーの『カルメン』と合わせて世界三大オペラと呼ばれることもある。色彩的な管弦楽と旋律豊かな声楽部が調和した名作で、日本が舞台ということもあり、プッチーニの作品の中では日本人に最もなじみの深い作品である。特に第二幕の「ある晴れた日に」は非常に有名である。

この作品では、長崎を舞台に、没落藩士令嬢の蝶々さんとアメリカ海軍士官ピンカートンとの恋愛の悲劇が描かれている。ピンカートンは任務で日本にいる間だけの遊びとして丸山遊女の蝶々さんと結婚する。そんなこととは知らず彼を信じ、三年間も帰りを待ち続ける蝶々夫人。夫人と言えども、まだ若干十八である。三年後、新しい妻を伴って日本に戻ってきた夫に子供を引き取りたいと告げられた蝶々夫人は失意のあまり自害する。そう、この物語の結末は悲劇なのだ。

しかしなぜだろう、どうしてあの上演はあんなに喜劇タッチに映るのか。外国人演出家による誤った日本文化の表現の応酬。そしてそんな演出を気にもかけず感動している現地の観客たち。なぜこんなに世界では誤った *Japonism* が平然と通用するのだろうか。そもそも日本文化とは何なのだろうか。開国後、それこそ「蝶々夫人」の時代の頃から急速に西洋化を図ってきた日本ではあるが、日本文化の恥をさらすくらいならば、名誉のためにいったん日本文化も消滅すべきではないだろうか。その破壊から改めて、文化は生まれるのではないか。

「夏がくる」

陰鬱な日々である。

今日の失敗はまず携帯のアラームから始まった。

七時にセットしていたはずが四時というところでもない時間に設定されていた。おかげでまだ薄暗い空を見つめながら起きるという事態に見舞われた。だいたい携帯のボタンの配置が悪いのだ、なぜ四と七のボタンは上下に並べて存在しているのか。我ながら理不尽だと思う怒りをぶつけながら二度寝したのがいけなかった。八時半、レポート提出にぎりぎり間に合うような間に合わないような非常に危うい時間に起きてしまった。必死で走って駅にたどりつき、電車の乗り継ぎがうまく行けばなんとかなりそう。

いっそのこと完全に寝過してしまえば諦めもついたというのに。だるさのプールに浸かったような身体をどうにか起こし、リモコンのボタンを足の指で押す。かわいらしいアナウンサーがかわいらしい傘を手で微笑んでいる。「にわか雨にご注意ください」、私は放置されていた折り畳み傘をリュックに詰めた。レポートがぐしゃりと音をたてて、私のやる気や元気が一緒にくしゃくしゃになるのを感じた。スニーカーに足をねじこんで私は外に出る。日の光が寝起きの身体に刺さるようだ。私は思わずうつむく。

その時、ふと、

目の前を原色がよぎった。

真っ黄色と黒のコントラストがまぶしいそれを目で追う。
アゲハ蝶の向かう先に真っ青な空と白い雲が輝いている。

レポート間に合うかもな。私は走り出した。

さっきまでのだるさは、いつの間にか消えていた。

ふたつの「蝶の死」

先日、近所の少年たちが遊んでいるのを眺めていると、少年たちはわらわらと集まって、地面にものを書き始めた。それぞれが思い思いの落書きをしていた。

そうしていると、どこからともなく蝶が一匹飛んできた。春になると花の周りを飛ぶような、羽根の色鮮やかなものではなく、誰の目にも地味な蝶だった。一緒にいた近所のご婦人が蛾と勘違いしたほどだ。一人が立ち上がり、その蝶を捕まえようとする。虫取りは巧くないようだが、数分すると戻ってきて、手の中に入った蝶を得意げに皆に見せた。

と、そのとき、彼は突然、その蝶を地面に叩きつけた。そしてまた叩く。蝶の羽根は無残にちぎれていた。そして今度は彼の兄が、手で蝶を思いつきりこすった。ザザザッ。跡には、ばらばらになった蝶の残骸だけが残った。

私には何が起きたのか理解できなかった。この子たちは今、何をしたいのだろう。叩きつけられた蝶が足をひくひくさせていた情景が頭にこびりつき、その答えを探そうとしても思考が停止して動かない。ご婦人は彼らを咎めなかった。必死で何かしらの考えを導き出そうとしている私の頭がおかしいのだとも言うように。

ただ、とてつもなく嫌な気分だけが自分の中に残った。

数日後、私がシャワーを浴びているとき、前の蝶と似たような、地味な蝶が風呂場に入っているのを見つけた。

しかし、すでに蝶は哀れな姿だった。運悪く水にはまっていたのである。私は救い出してやろうと、蝶を手で引き上げようとした。が、それが最悪の事態を招いてしまった。水面に鱗粉が広がり、蝶の羽根はもはや再生することができなくなった。私は蝶を起こして水のかからない場所に置いたが、次の日に見てみると、蝶はひっくり返った状態で息絶えていた。

二匹の蝶の死には違いがあるのか。私の解答はいまだ空白のままだ。

「旅立ちの時」

ずっと待っていた。

ただ、待ち続けてた。

旅立ちの時を

かたい殻を割って

大空に飛び立つこの時を

今年も夏休みがやってきました。おなじみの夏休みの宿題、自由研究。今回はどうしようかな。読書感想文は去年やったし、図画工作も前にやったな。うーん、あ、昆虫採集なんだろう？別に虫が嫌いなわけじゃないし、やった事ないし。うん、いい考えだ。とすると、採集する虫は何にしようかなー？

—という事で、僕は今、都会にある自宅から離れて、田舎のおばあちゃんの家に来ている。もともと家族総出で里帰りする予定だったから、ちょうど都合良く宿題も片付く、という事で僕は虫取り網とかを荷物に加えて持ってやってきました。でも、何を捕まえるのかはまだ決めていないんだけど。

でも、沢山の種類が見つかる虫がいいな！その方がみんなから尊敬されるし、なるべく楽しんで終わらせたいしね。おばあちゃんの家にいるのは四日間のみ。頑張るぞ！

一日目。まずはおばあちゃんの家の中を探してみることにした。しかしある意味自然に囲まれている環境だから蚊にくわれるし、見かけるのは変な虫ばかりだ。僕が集めたいような虫はなかなか見つからず、今日は断念。明日はもっと遠い所まで探してみよう。

二日目。今日はもっと遠いところまで探索する。不思議なことに、たいした虫がさほど見つからなかった。でもその代わりに、なんだか虫がいそうな森を見つけた。実際、何がいるかは分からないけど。でもこの森は広そうだし気になるな…。

三日目。今日からはこの森を集中して探す事にした。カブトムシとかクワガタとかいないかなー、なんて思った矢先、ぼうっと光った何かがふわふわと飛んでいた、気がした。こんな朝からホタル？っているのかな？好奇心に駆られて、見失わないように追いかけてみる。行ってみると、そこにはいろんな種類の蝶がいた。なんでここにだけ集まっているのかな？とも思っただけど、思わずこの光景に心奪われてしまった。光っているの、よく飛ぶの、小さいのから大きいの、色も黄色から青まで。幻想的、という雰囲気かな？すごい風景だった。よし、今日は少しだけつかまえてよう。また明日来てたくさんつかまえてよう。そうすれば明日でもう宿題が終わるんだ…！

四日目。昨日の蝶のことを話したらおばあちゃんが少し変な顔になった。ちょっと気になるけど…。虫取り道具を持ってわくわくして行っただけど、昨日と同じ所にいつても何もいなかった。でも昨日とは似ているけど違う気配や雰囲気を感じる。んー？よく目を凝らすと、妙に薄暗いのは蝶の大群だった。昨日は怖くなかったのに、今日は小さい蝶まで恐ろしく感じる。昔に僕に何かづまづくる蝶—それは取り囲むように僕の体を覆う。なんだ、これ！

今年の夏、「ある地方で少年・少女が行方不明、また失踪現場と思われる所からは夥しい数の蝶が舞っていた」といったニュースが何件も発生していたという――。

ちようちようはまる

でさそっているかの

蝶々は月光を背に浴びながら、夏の夜空を飛んでいる。夜の世界に騒がしい人間たちは不要。自由自在に、思い通りに飛べる。その姿は、まるでパリのシャンゼリゼ通りを闊歩するモナ・リザのように美しく優雅で、かつ堂々としている。サナギから羽化してすでに一カ月、外の世界にはもう慣れた。ときに花の蜜を吸い、ときに子孫を残すべくメスの仲間をさがす。蝶々の身など何が起るか分からないものだ。やるべきことはやって寿命をまっとうしよう。

町長は月光を背に浴びながら、夏の夜道を走っている。夜の世界にうるさい住民どもは不要。自由自在に、思い通りにゲームできる。その姿は、まるでかつて秋葉原中を震撼させたTO（トップオタ）を連想させるものがある。ニートから脱却して町長になってすでに一カ月、外の世界にはもう慣れた。ときに鼻水をすすり、ときに子孫を残すべくソープランドへ通う。町長の身など何が起るか分からないものだ。やりたいことはやって任期をまっとうしよう。

ようにつややかに
ろやかにおどる

ゆらゆらと舞い上がる

目指すのはきみのもと

甘い匂いでほくを誘う

大きな赤いかわいい花

今日もきみを目指して

ぼくは野原を飛び回る

陽を浴びて輝くきみは

ほくだけのいとしい花

今日は生憎の雨を行く

露に濡れても笑うきみ

心なしか元気がないが

今日もきみは綺麗だよ

今日もきみを訪ねると

いつもの場所に枯れ花

別れを告げないなんて

なんてきみは罪な花だ

今日はきみが残した種

いろんな場所に散らす

いつも蜜をもらうぼく

できる事はこれくらい

気付けばボロボロの羽

ぼくももう限界みたい

最後の種を運び終える

またいつか巡り逢おう

花と蝶

蝶のように

もし僕が蝶のように美しくて

もし僕が蝶のようにひらひら飛べたら

今すぐあなたに会いに行くのに

憧れと現実の狭間

いつか蝶になれる日がくるのだろうか

僕はひらひらと軽やかに僕の右上を飛んで行った

鮮やかな二枚の羽をもち

どこまでも自由な天真爛漫な彼女を見て思った

どこからか飛んできた一匹の雄は

どこで戦ってきたのかというほど羽がぼろぼろになっていたけど

彼女は彼に夢中になり

無邪気に戯れながら僕の小さな視界から消えてしまった

毎日目の前の葉っぱをむさぼり

鳥に見つかからないかってびくびくして

ちよつとこの僕の遅い足がどうにかならないものかと悩んだり

もはや葉っぱと同化できないものかと頑張ってみたり

蝶になりたい

そして花から花へと飛びまわりたい

今みたいにただ害虫と同じ扱いはもう嫌なんだ

花が実を結ぶことに僕らを必要としているのに

なんで僕はまだこんなところで涼んでいるんだろう

この間僕の友達が茶色いごつごつに姿を変えてしまい

ああ、あいつ終わったかとちよつと寂しかったけど

ちよつと僕は安心もしていたんだ

そしたらある日彼は見事な羽を持ってそのごつごつの中から出てきて

僕は驚きを隠せなかった

きれいだと思っていた蝶はみんな

一旦あんなに醜い姿になって頑張ってきたことを僕は知った

もうすこしだけ幼虫ニートでいよう

目撃者

『ミンミンミンミン』

蟬の鳴き声が聞こえる。私は妻と娘と山登りに来ていた。

娘の小学校が夏休みに入ったので、休暇を利用して娘をどこかに連れて行ってやろうと思い、娘に尋ねたところ、

「筑波山がいい。頂上でソフトクリームを食べるの。」

とのことだった。娘は小学三年生の時に遠足で筑波山に登ったことがあり、どうやら頂上でソフトクリームが売られていたのを覚えているらしい。遠足では食べられなかったようで、頂上での集合写真の娘の顔がムスツとしていたのが印象的だった。

「少し休憩しよう。」

私は坂道を駆け登る娘に言って近くの木陰に腰を下ろした。妻も隣に座り水筒を出して麦茶を注いでいる。

ふと、目の前を黒アゲハがふらふらと飛んで行った。漆黒の羽根に赤斑が並んでいる。よく見ると触覚がない。この黒アゲハには見覚えがあった。

私が小学六年生の時のことである。あの日は今日と同じように蒸し暑い日だった。私は友人の加藤と二人で下校していた。その時、私はひどく加藤に対して激怒していたことを覚えている。何故原因だったかよく覚えていないが、私の心に突き刺さるような何かをされたのは確かである。しかし、加藤はそんな私に対してヘラヘラと笑っていた。

私は加藤が許せなかったのだ。帰り道にある橋の上で私は加藤に、

「虹色の魚が見えた。」

と嘘をつき、加藤が水面を覗き込んだとき、後ろから突き落とした。川だから大丈夫という思い

があったのだろうが、このところ雨が少なかったため水深はとも浅くなっていた。加藤は頭から落ち、『ゴッ』という生々しい音が聞こえた。

僕はすぐにまづいと思い、逃げようと振り返ると、そこには一匹の黒アゲハが飛んでいた。黒アゲハは私を責め立てるかのように私の周りをヒラヒラと飛んだ。私は蝶にさえ怯え、持っていたカバンを振り回し黒アゲハを追っ払った。黒アゲハは触覚が一本とれたらしく、ふらふらとはばたきどこかへ飛んで行った。

翌日、加藤が橋から落ち、重傷を負ったことが全校集会で発表された。どうやら頭を強く打ったことで右目の視力を失ったらしい。僕は警察に逮捕されるのではないかと思っていたが、先生の話によると、加藤は橋から落ちた時のことを覚えていないらしい。もちろん僕と一緒に下校したこともだ。おかげで僕はその後捕まることもなく、また、二度と加藤と話すこともなく、そのまま卒業した。僕は親の仕事の都合で卒業と同時に引越したため、加藤とはそれっきりになった。

「おとーさん、おとーさん。」

娘の呼ぶ声で我に返った。

「黒い蝶々が飛んでいるよ。」

そう言っただけは駆け出し、黒アゲハを捕まえようとした。黒アゲハはふらふらとしていて今にも息絶えそうだ。

わたしにある考えがよぎる。この黒アゲハだけがあの事故の目撃者なのだ。だから：

「こら、蝶がかわいそうだよ。」

私は、娘を制した。なぜなら、この蝶はあの時の蝶ではないし、目撃者がいなくなったところで私の罪は消えない。なによりもこのようなやり方で罪から逃げてはいけない。私は強く思った。

「さあ、いくぞ。」

頂上へと歩く力が湧いてきた。

日本人の皆さま

お願いがあります。

「超ムカつく」

この言葉の使用をやめて頂けないでしょうか
この言葉を耳にする度に

私たちは自分が何をしたらどうかと

思い悩んでしまうことが多々あります

お互い良い関係を保ち続けられるよう

ひとつよろしくお願いします

尚

「超かっこいい」「超かわいい」「超頭いい」

等々の言葉は

今後もし引き続き使用して頂けると幸いです

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
A01	美しく	3 pt 大器晩成！ やっちゃったのか、はたまた造語か。 晩期大成——言い得て妙かも。大器じゃなくっても、 みんな大成するのは晩期だよね、と。 行書体で蝶の一生を格調高く切り取った今週の表紙で した。 イチオシフレーズ：「晩期大成」× 2	8 位	0 sp
A02	花と蝶と少女	2 pt 甘〜〜い！ そして二人の可憐な少女はこの瞬間に蝶 となり、かるやかに踊った挙げ句に飛び疲れて地に落 ちてしまうのでしょうか。 これだけ甘い展開のあと、作者さんがどんな運命を二 人に用意されたのかが気になってみたり。 特別賞：こっばずかしいで賞（はずかしくて読めな い） イチオシフレーズ：「華、待ってよ。わ、私も華が好 き。」	9 位	1 sp
A03	二月九日月よう 日	13 pt 子どもの頃って小さなことでも人生の一大事として真 剣にかかえこみますよね。 「最後の一葉」を子ども視線にして、白い蝶を絡ませ ることで、そんな回顧の思いを誘います。 白い蝶にふさわしくシルバー・メダルでした、おめで とう!! 特別賞： は が多いで賞（ は が1つ多い）	2 位	1 sp
A04	道化師（ピエ ロ）	0 pt リズムよく歌のように。 情景と心情をコンパクトに伝えつつ、赤い蝶ネクタイ がスポットライトに輝きます。 レイアウト、もっと中央にすると、ピエロのさびしさ がより際立ったでしょうに、もったいない。 A4サイズをカットしてB5にしてるみなさまは、そん な見せ方も工夫してみてください。 イチオシフレーズ：「白い白粉で顔を隠し、赤い絵の 具で心を隠し……」	12 位	0 sp
A05	蝶々の思い出	4 pt 幼い頃の思い出って、こんなふうに切れ切れの断片で すよね。その感じが、とてもよく映し出されていま す。 で、引っ張って引っ張って、まさかのマラソン大会オ チへ。くすりとほほえましく読み終わられます。	6 位	0 sp
	無題（貴方は蝶	4 pt 詩はリズムいのち。 蜜を吸いつくされながらも、貴方なしには生きられな	6 位	0 sp

A06	で私は 花・・・)	い。男と女の、女視点からの暗喩だったでしょうか。 いじらしすぎて、逆に怖いおんなごころ。さらりと切り取っていただきました。 イチオシフレーズ：「貴方は蝶で私は花」
A07	～波乱万丈伝～	1 pt 11 位 0 sp 芸人さんの舞台裏の苦労や思い出に、蝶ネクタイという小道具を使ってフィーチャー。お母さんまで登場して、しみじみといい展開です。 楽屋オチコード違反の危険を冒してまで無理にさんまさんにしなくても、読み手の想像力にゆだねてしまって良かったのでは。
A08	とある蝶の日記	2 pt 9 位 12 sp 今回、標本になって悲しい、という切り口は、たくさんあったのですが、あの子と一緒にうれしいなとポジティブにとらえた視点が、なごみポイントでした。 蝶レイアウトもグッジョブ。そこが大ヒットで、なんとなんと特別賞総なめ、12個もいただけるという、とんでもなく記録的な展開となりました。おめでとう!! 特別賞：レイアウト賞×7（蝶に合わせたレイアウトがキレイ!）レイアウトベスト賞 見にくいで賞（見にくかった。レイアウトはきれい）読みにくいで賞（レイアウトがgood!!）がんばったで賞（形すごい）バタフライ賞（レイアウト頑張った）
A09	恩返し	25 pt 1 位 0 sp わはは、うまいうまい。P 星人ってば、おちゃめすぎ! コントのコミカルさで楽しめました。 いきなりオチに行かずに、アリさんと遊んだ前段が効いてますね。 大ヒットのゴールド・メダル、おめでとう!! これによって、Aブロックの後半戦はネタの嵐となる……のか!?
A10	ヘラクレス・ア ゲハ蝶	13 pt 2 位 0 sp 去りゆく人がこの世に残した最後のプレゼント。それはプレゼントをさせてあげること。 心にしみるコンセプトです。 人は誰かのために何かをすることでしあわせになる。ちょっとシリアスな状況を設定することで、そんなたいせつなメッセージをお届けいただきました。 フロアの感動をさそってシルバー・メダルです、おめでとう!! イチオシフレーズ：「それは妹からの最後のプレゼント」×2 「バカね、そんな蝶いるわけじゃない」
A11	白い妖精	12 pt 4 位 1 sp まさかの夫さん登場。「羽を広げて」が伏線ですね。それまでのひらひら気分が吹っ飛びます。 夫さんのグッジョブによって、イチオシフレーズ大賞をさらいました。 しかしねえ……ご婦人が浪漫に浸っているときは、ぶちこわしてはなりません。「これだから理系の男は……」って言われないように、将来の夫予備軍のかたがたはご用心。 特別賞：夫もっとしゃべりま賞（感動をかえせっ!）

		イチオシフレーズ：「ああそれは蛾だね」×6 「口数少ない夫が喋った」
A12	神声人語	12 pt4 位0 sp まさに天の声。しっかり新聞コラムに仕立てて、軽やかに童謡ネタから入ってポセイドンまで召還しての政策提言。 ていねいに手をかけた作りは、作者さんの誠実なお仕事ぶりとともに、8500万年間もずーっと自由放任主義でやってきた人類への強いメッセージのあらわれかなと読みました。 ベスト3まで、あと1ポイント。がんばれ正統派。

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	ちょうちょ	5 pt8 位4 sp 蝶の一生をレイアウトとフレーズできれいに造型。絵本気分漂う今週の表紙に、レイアウトを評価した特別賞をたくさんいただきました。 特別賞：SANAGI賞（レイアウトが美しい） おいしい賞 レイアウト賞（レイアウトがんばってた） デザイン賞（キレイにさなぎのレイアウトができていて、内容と一致していたから）		
B02	Con onor muore・・・ （蝶々夫人）	2 pt9 位3 sp あれれ？ T Aさん対応可能言語のなかに、イタリア語はなかったはずだけど。 だいじょうぶ、グーグルsenseに訊きました。「名誉のために生けることかなわざりし時は、名誉のために死なん（Con onor muore chi non puo serbar vita con onore.）」 蝶々夫人について手際よく紹介しつつ、海外における日本文化の受容のされかたの不正確さ・キツクさへと自説を展開。ウンチク+メッセージのバランスが絶妙でした。 正統派推進運動、依然展開中。蝶々夫人に続け！ 特別賞：危ないで賞（暴論。日本がアブない!!） 読めないで賞（タイトルの意味を知りたい） 正統派賞（一番正統派だったから） イチオシフレーズ：「Con onor muore・・・」		
B03	夏がくる	12 pt4 位0 sp 日常感あふれる前半の描写が親近感を誘います。何も事件は起こらない。だから、ずっと読み手が作者にシンクロできる。外は夏空。蝶が運んだ小さな小さな応援歌でした。 イチオシフレーズ：「さっきまでのだるさは、いつの間にか消えていた。」		
B04	ふたつの「蝶の死」	9 pt5 位0 sp ごつごつした仕上がりだなと読みました。物語としてきれいに整えるという加工がされていない原石。そのぶん、ざらりとナマの感触で読み手にさしこまれてくる迫力があります。よって実体験かなと推理。 さっさと答えを出して終わりにしたりしない、このスタンス。ぜひ今後とも。		
		0 pt11 位0 sp さなぎからいざ大空へ。羽ばたく瞬間への期待が、「旅		

B05	旅立ちの時	立ち」というキーワードから伝わってきます。 2箇月前にはたしかに自分のなかにあったもの。もう一度呼び戻してみようぜという自分や読み手への呼びかけでもあったのかも。 イチオシフレーズ：「大空に飛び立つこの時を」
B06	ぼくのなつやすみ	0 pt 11 位 1 sp ひなびた田舎の夏休み。ほのぼのフォントに油断していたら、な、な、なんとホラーオチでした。 たしかに蝶がびっしりぎっしりは、いかにも魔性めいた光景ですね。そこをもっとアピールすると良かったか。 特別賞：よく分からないで賞（3日目と4日目に何があった!?)
B07	ちょうちょうはまるで……	6 pt 7 位 5 sp おー、すごいすごい。技巧派ここに極まれり。 でもでも町長さん、ソーブは失脚の危険がありますぜ。マスコミからじょうずに隠れて、ほどほどに。 そのギリギリ狙いのアブなさが印象的だったか最多特別賞ゲットです、おめでとう！ 特別賞：下（しも）賞（上段下段に分ける工夫がよかったから）つややかにかるやかにおどるで賞（ふざけてたから）嘲笑（なんかういている）おかしいで賞（ソーブで子孫は残さないでしょう）アウト賞（放送コードにひっかかっているから） イチオシフレーズ：「ちょうちょうはまる」「ソーブランド」「TO（トップオタ）」
B08	花と蝶	13 pt 3 位 0 sp 絵本のページをめくっていくような展開で、小さなラヴ・ストーリーの始まりと終わり。4行できれいに揃えた言葉えらびのていねいさが光ります。 またいつか。ラストにしんみり。 メルヘンタッチがここちよく響いて、激戦のなかブロンズ・メダルの評価をいただきました。おめでとう！
B09	蝶のように	1 pt 10 位 2 sp さらりとつぶやき。 窓際で頬杖ついて外を見ている少年、という絵が浮かびました。 特別賞：頑張った賞（頑張った気持ちが伝わった）将来の成長に期待するで賞（題目いらない）
B10	憧れと現実の狭間	18 pt 1 位 0 sp これは新視点。幼虫の視線から成虫を見ると。 しっかり成り切ったの描写なので、映像や気持ちがするする見えてきます。茶色いごつごつとか、うまいなあ。 そしてラストがニートか、やるなあ。 ヤンデレ姫の華麗なる変身、みごとに首位に輝きました。あわせイチオシフレーズ大賞もゲットです。おめでとう!! イチオシフレーズ：「もう少しだけニート（幼虫）でいよう」×7
B11	目撃者	9 pt 5 位 0 sp 蝶に導かれて不意に蘇ってくる過去の暗部。自然な運びで重たいドラマをずしりと提供。ストーリーテリングの巧みさが光ります。 どれ一つとして無駄な描写がなく、つよいインパクトで細部まで光ります。なかなか、ここまでしっかり書くことはむずかしいもの。みごとな筆力でした。
		15 pt 2 位 0 sp

B12

日本人の皆さま

その「超」かいっっ！
さんざん蝶と戯れてきただけに、そんなハズシっぷりが
とても新鮮な今週の読み納めでした。ていねいな言葉遣
いが好印象です。
「超うれしいです」作者コメントまで作品と一体化して
ましたね。おめでとうシルバー・メダル!!
イチオシフレーズ：「超ムカツク」「超かっこいい」